

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
1	水環境における希少動植物の保全に向けた研究	H29～30	4.9	4.6	3.7	3.7	16.9	実施すべきものとする
委員からの意見			意見への対応					
モニタリング手法に環境DNAを用いること、稚貝育成器の活用を試行錯誤で行うとのことでしたがもう少し先進事例を研究されても良いのでは。（A氏）			技術的な課題解決のため、更なる情報収集も含め先進事例を参考にしながら検討していく予定。					
これまでの研究実績や情報の蓄積にも期待する。（B氏）			得られた知見の活用も含め、学会発表や学術誌への投稿などにより、成果を残していきたい。					
地域住民への情報発信、技術提供を通して、住民意識の向上を期待する。（C氏）			効果的な情報発信を検討し、住民意識の向上に繋げていきたい。					
環境DNAを用いた手法は、個体数の増減をとらえられず、また、未検出から「存在しない」と断言する事は出来ない。そのため、本研究への利用は困難であると考えられる。（G氏）			モニタリングの1つの手法として検討するものであり、どこまで実用化できるか、本事業で見極めていきたい。					
水環境対策チーム その他	<p>県に要請された課題であり、ニーズは高いと考える。また県でなければ実施困難。（A氏）</p> <p>これまでの研究成果を活かした研究であり、さらに応用の可能性もある。（A氏）</p> <p>湖山池の自然再生にとっては、本研究の社会的ニーズは極めて高い。（B氏）</p> <p>水環境における希少動植物の保全のみならず住環境など環境保全効果は非常に高い。（B氏）</p> <p>カラスガイ、セキショウモともに数が減っていて、現状把握や再生技術の確立は必要と思われる。（C氏）</p> <p>湯梨浜町、北浜中学校と協力しながらのセキショウモの試験移植など、地域との取り組みを評価する。（C氏）</p> <p>本県においては、カラスガイおよび水生植物の再生についてのニーズとシーズがともにあり、施策とも関連した研究提案であることから必要性が高い。（D氏）</p> <p>他県においても希少な動植物となっており、知見が引用される可能性が高い。（D氏）</p> <p>これまでに研究してきたことの発展形であり、環境保全の面からも県の事業として必要である。（E氏）</p> <p>身近な湖沼生物の保全であり、県民の興味関心に繋がる。（E氏）</p> <p>これまでに研究してきたことをベースにしているため、手法等は適切に思える。（E氏）</p> <p>環境保全や住民の意識向上に役立つ。（F氏）</p> <p>思うように進まない事があるかもしれないが頑張っていたきたい。（F氏）</p> <p>全国的に絶滅が危惧される希少種であり、県での保護研究が必要であると共に、地域住民へ環境保全に対する意識啓発のきっかけとなる。（G氏）</p> <p>特に対象とする湖周辺住民の意識向上効果が期待される。また、保全技術が確立されれば、他県の事例にも応用できる。（G氏）</p> <p>保全技術確立のための実験や調査費が主たる必要予算であり、適正である。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
2	水質観測技術の実用化に向けた研究	H29～30	4.3	4.1	3.9	3.6	15.9	実施すべきものとする
委員からの意見		意見への対応						
研究成果の活用について検討の必要性がある。（A氏）		活用方法も含めて本事業で検討する予定である。						
目標設定は明確であるが、成功させるための研究手法にまだ工夫がいらそう。（A氏）		これまでの手法をそのまま適用することはできないため、手法開発も含めて、本事業で検討する。						
これまで行ってきた研究成果を前提としてさらなる展開が必要と考える。（B氏）		本事業の中で、これまでの成果を活用して、効果的に情報発信できるシステムを構築したい。						
広範囲に頻度を増やして情報を収集することが必要。（F氏）		例えば、撮影地点など工夫をし、可能な情報収集の拡大を検討したい。						
水環境対策チーム その他	<p>住民ニーズの高いテーマで有り、県行政として取りくむべき課題である。（A氏）</p> <p>昨年までの研究成果を実用化に向けステップアップさせる取り組みで意義深い。（A氏）</p> <p>得られた画像の解析が迅速・的確に行われれば環境保全に貢献できる。（B氏）</p> <p>これまでの情報の蓄積の活用や、民間企業との連携にも期待する。（B氏）</p> <p>環境情報をわかりやすく伝えるためにも手法の確立が求められる。（C氏）</p> <p>定期的にモニタリングし、画像を定期的に公表することで地域住民へ環境意識の向上につながる。（C氏）</p> <p>HP、町報などへの掲載が住民に与える影響は大きい。底面が透明なカヌー、ボート、SUPなどまずはレジャー感覚で、幅広い年代層の人が湖に親しむ機会が増えるとよい。（C氏）</p> <p>これまでの県の研究実績に基づいている。コストや労力を抑える方法はニーズがあり、「東郷池の健康診断」に使う予定とのこと。（D氏）</p> <p>成果をHP上に公開すれば、県民の意識向上に効果があると思われる。アオコの検出も可能とのことであり、東郷池の水門運用に利用可能性があると思われる。（D氏）</p> <p>過年度の研究課題に基づいて立案されており、適切は手法が採用されている。（D氏）</p> <p>計上されている備品は、本研究の遂行にあたり妥当である。（D氏）</p> <p>これまでに研究してきたことの発展形であり、生活に関わる地域住民にとっては重要な研究である。（E氏）</p> <p>湖沼の水質データの解析は県民へ情報を提供するために必要である。（E氏）</p> <p>研究計画・手法はこれまでの研究を基にしており適切だと思われる。（E氏）</p> <p>「迅速」「わかり易く」「的確に」という目標設定が良い。（F氏）</p> <p>住民の要望に応えられる。（F氏）</p> <p>漁業関係者からの情報が要求ニーズは高い。県内の湖が対象であるため、県が取り組むべき事業である。（G氏）</p> <p>本研究により、水質汚染や変化がとらえることで、汚染要因の解明や汚染防止・予測技術の開発に資すると期待できる。（G氏）</p> <p>画像データ収集の手法、それらを用いた水質評価手法の確立に焦点があてられており、手順・手法・研究期間も適正である。（G氏）</p> <p>初年度に画像を取得するための備品要求があり、若干高額になっているが、他の予算額を含めて適正である。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
3	鳥取県内の粒子状汚染物質の実態解明に関する調査研究	H29～30	4.4	4.6	3.9	4.0	16.9	実施すべきものとする
委員からの意見			意見への対応					
測定結果の適切な解析がポイントと思われる。（B氏）			先行事例の情報収集等を行い、適切な解析方法を検討するとともに、結果を丁寧に解析していく。					
発生源、由来などの分析も年間を通じて調査が必要。（C氏）			年間を通じて、採取、分析、汚染物質の由来の推定を行う予定である。					
成果の利用方法を提案できるとなおよい。（D氏）			調査の結果、野焼きや自動車等の地域内に汚染源があると考えられる場合は地域内の発生源対策に、越境汚染の影響が大きいと考えられる場合は国への要望等の基礎資料として活用できると考える。					
わかり易い解析と情報提供をお願いしたい。（F氏）			結果については、分かりやすくとりまとめ、ホームページや出前説明会等の機会を通じ、県民へ情報提供していく。					
大気・地球環境室 その他	<p>これまでに取組まれなかった通年の測定による全体像の把握、発生源の推定は県が取り組む環境行政の基礎データとしての意義は大きい。（A氏）</p> <p>研究成果により発生源を推定し今後の排出源対策の基礎資料となる。（A氏）</p> <p>手間暇を惜しまない試料採取、測定など目標設定、研究手法も整理されている。（A氏）</p> <p>これまでの研究成果の蓄積を基礎にした調査研究はニーズが高い。（B氏）</p> <p>県民の保健衛生の向上に研究成果は大きく貢献できる。（B氏）</p> <p>県民の関心も高く、今後ますます被害は深刻になることが予想される。発表された情報を基に行動を変更する者もいる。（C氏）</p> <p>健康影響が懸念される分野であり、県民の関心が高い。過年度の県の研究成果を踏まえることができることから、県で実施する妥当性がある。（D氏）</p> <p>詳細な時系列での起源解明につながれば、意識向上や保健衛生の向上、他研究での利用につながる可能性が高い。（D氏）</p> <p>試料の測定方法、寄与の分析方法とも明確である。（D氏）</p> <p>少ない予算で、毎日採取試料の成分分析を予定している。（D氏）</p> <p>これまでに研究してきたことの延長研究であり、県内の環境の理解に重要である。（E氏）</p> <p>PM2.5の研究であり、県民の環境への関心は高い。基礎データの蓄積がメインであり発展した研究も望める。（E氏）</p> <p>これまでに研究してきたことの延長研究であり、適切だと思われる。（E氏）</p> <p>大気汚染は重要な課題。（F氏）</p> <p>粒子状汚染物質の排出源対策の基礎資料になることを期待。（F氏）</p> <p>終了研究成果を発展させた内容であり、県内の粒子状汚染物質の飛散状況を把握するものである。（G氏）</p> <p>粒子状汚染物質への関心は近年高まっているが、そのモニタリングと情報提供の期間は限定的であり、県民からの興味は高いと考える。（G氏）</p> <p>汚染物質飛散モニタリングと要因の特定という明確な目的があり、手法・期間ともに適切であるため、目的に対する成果が得られると期待される。（G氏）</p> <p>計測機器（大型備品）などは保有済みであり、基本的に消耗品のみで目的に対する成果が得られる。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
4	鳥取県全域における空間放射線及び環境試料中の放射能調査	H29～30	4.6	4.6	3.9	4.0	17.0	実施すべきものとする
委員からの意見		意見への対応						
手法自身には特段の新規性は認めたいが、広域での調査は苦勞が多いと思われる。（B氏）		モニタリング手法として定められた方法に基づき調査を実施する予定であるが、広域調査で地点数が多く採取・前処理等に時間を要すると考えられるため、計画的に調査を進めて行く。						
UPZ 内だけでなく、県内全域を定期的にモニタリングして平常値を把握し、データを公表することも必要と考える。（C氏）		県内全地域の平常値を把握することは重要と考えており、今後も定期的に実施したいと考えている。また、測定結果については、前回（平成24年度）と同様、所報やホームページ等で公表する予定。						
調査内容、手法は明確であるが、緊急時との対比データとなることを鑑み、モニタリングする植物を決定すべきである。（D氏）		UPZ 外では、緊急時に容易にサンプリングでき、かつ、前回の調査実績のあるヨモギを調査する予定である。一方、UPZ 内では、本県及び島根県ともに継続してモニタリングしている松葉を調査する予定であるが、松葉が採取できない地点については、ヨモギを調査し平常値を把握する。						
おおむね適正であると思われる。間隔が5年でいいのか、次回の調査の時期についても考えてもらいたい。（E氏）		継続的に調査を実施することは必要であり、当面は5年程度を目途（次回は平成35年頃）に実施したいと考えている。						
島根県に原発があり、県内の一部の地域がUPZ 対象となっている。放射能測定対象項目の検証やモニタリングデータの収集を行うべきである。（G氏）		今回の調査は、通常の平常時モニタリングに加え、地点や項目を増やして詳細なデータ収集を行おうとするものであり、新たな知見が得られた場合、平常時モニタリングの拡充等の検討を行いたい。						
大気・地球環境室	その他	<p>島根原子力発電からUPZ 内に鳥取県内も該当することから、必須の施策であり、県が取り組まなければならないテーマである。（A氏）</p> <p>いざという時のための基礎データを蓄積するための調査であるが、環境保全や住民の不安の払拭につながる。（A氏）</p> <p>目標、研究計画とも明確かつ具体的である。（A氏）</p> <p>本調査は社会的ニーズが高いと判断する。（B氏）</p> <p>県民の保健衛生の観点からこのような調査を平常時から行うことは大きな意義がある。（B氏）</p> <p>モニタリングの結果が公表され、モニタリング車への理解が深まることにより、住民の安心が得られ、また放射能への関心につながる。（C氏）</p> <p>これまでのデータの蓄積が少ないため、評価の判断材料となるデータをとっておく必要性は高い。県内のモニタリングであり県でなければ実施困難である。（D氏）</p> <p>平常時のモニタリング結果は、緊急時の対比データとしてきわめて重要である。（D氏）</p> <p>放射線及び放射能は県民にとって関心の高いと思われる内容であり、県の事業として必要。（E氏）</p> <p>基礎データとして他の研究や県民への情報提供として利用できる。（E氏）</p> <p>空間放射線量の情報は必要。（F氏）</p> <p>特に緊急時の評価に活用できる。（F氏）</p> <p>環境試料中の放射能調査に期待。（F氏）</p> <p>現状、県民の関心は高くないかもしれないが、緊急時に備え、放射能物質の飛散状況を提供できる環境整備を整えておくことが重要である。（G氏）</p> <p>調査対象や手法ともに適正であり、研究期間終了時には、県内の放射能状況把握や測定手法が確立できると考える。（G氏）</p> <p>モニタリングの為の消耗品・調査旅費が主であり、適切な予算額である。（G氏）</p>						

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票(事前評価)

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
5	食品、植物抽出物の抗ノロウイルス作用に関する研究	H29～31	2.9	3.1	2.3	2.6	10.9	委員の意見等を反映して実施すべきものとする
委員からの意見			意見への対応					
感染予防の視点ではニーズは高いが、感染が発生してから使用するために開発という発想は一考を要する。県でする必然性も低い。(A氏)			感染拡大防止に加えて発生前から予防する方法も検討する。 また、県民からの強い要望もあり、当所で実施するものと考えている。					
食品で感染予防をすることには無理がある。あくまでも補助的な効果でしかない。(A氏)			補助的にでも感染を予防する効果が得られれば、県民の健康維持に役立つと思われる。					
研究開始までに、ある程度の自然食品の文献等よりリストアップしてあっても良いのではないか。(A氏)			文献によるリストアップは行いつつあり、現在までに期待できる候補として6種類の物質をリストアップしている。					
効果を確認することは容易ではないと思われるが適切なスクリーニング法の適用を期待する。(B氏)			文献を参考に、サンプルの抗カリシウイルス(ノロウイルス(NV)代替ウイルス)効果が確認された試験方法と同様の試験方法により、効果確認できるものと考えている。					
口からの摂取の他に、アロマによる予防は期待できないか。(C氏)			アロマに関して知見は乏しく、研究を行うには課題が多いが、消毒剤など経口摂取以外の予防法についても検討したい。					
実施以前の個々の乳幼児のアレルギーチェックを徹底する。保護者に研究の趣旨を説明し、食品を摂取させる旨、同意を得る必要がある。(C氏)			ヒトでの試験については別実験としてスクリーニングの結果を元に改めて検討することとしています。 その際には、ご意見を重く受け止め検討させていただきます。					
ノロウイルスの予防対策が重要なことは論を待たないが、県の具体的な施策やニーズとの関連性に乏しい。県でなければ実施困難な研究とはいえない。(民間企業が取り組みそうな内容である)(D氏)			県民からの強い要望があり、当所で実施するものと考えている。 また、NVが社会的に問題となって以降、20年近く経過しているが実態として民間企業により開発された予防法としてはごくわずかな製品しかできていないのが現状である。					
ノロウイルスは被害が多くニーズはあるが、県でなければ実施困難かは微妙。(E氏)								
ノロウイルスに対する防止手法が確立できることは有意義であるが、鳥取県が率先して取り組むべきかには疑問がある。(G氏)								
手当たり次第では、実用化レベルで十分な抗NV作用を有する食品を見つけ出すことは困難と思われる。(D氏)			文献を十分検索し、効果の見込める食品を絞り込んでからスクリーニングを行う予定である。現在までに6つの候補物質・食品をリストアップしている。					

	<p>提案期間の研究内容・研究計画が十分にわからなかった。</p> <p>十分な抗NV作用を有する食品が見つからない場合、2年目以降の研究が成立しない恐れがある。単年度研究として仕切り直すべきである。(D氏)</p>	<p>スクリーニングとして、2年間は必要と考えている。</p> <p>3年目は、加工法等の実用化に向けた研究を考えているところだが、おっしゃるとおり3年目以降の研究はスクリーニングの成果により、検討するものと考えている。</p>
	<p>Vitroの試験(スクリーニング)とヒト試験は食品であれ、使用濃度や量、毒性が関わるため直結できない。別の研究として考えた方がいいと考える。</p> <p>食品の抗インフルエンザ等他のウイルスへの作用も参照に。(E氏)</p>	<p>他のウイルスへの効果がみられる食品も参考にしつつVitroの実験を行い、ヒトでの試験については次のステップの別実験としてスクリーニングの結果を元に改めて検討するものです。</p>
	<p>計画内容が不明瞭であり、予算に見合った実験規模なのか判断できなかった。(D氏)</p>	<p>平成29年度から2年をかけて100物質を目処に候補物質のスクリーニングを行い、3年目に候補物質について実用化にむけ加工法等の予備試験を行う予定です。</p> <p>スクリーニングは実績ある方法を用い、ウイルスの外殻タンパク質の破壊効果や受容体吸着阻止効果を検証するものです。</p>
	<p>何種類、何サンプルのスクリーニング試験を考えているのか疑問。(E氏)</p>	<p>文献情報により、期待できるとされている食品と同系統のものなど、2年間で100サンプル程度をスクリーニング試験する予定。</p>
	<p>県だけでなく、他の機関との共同研究を検討してはどうか。(F氏)</p>	<p>次の研究ステップにはなるが、共同研究等について企業等との連携を検討したい。</p>
	<p>保育所や高齢者施設で、自然食品を数日間摂取させるという活用例がイメージしにくい。(F氏)</p>	<p>給食などの機会を利用して摂取してもらうことを考えている。</p>
	<p>乳幼児や高齢者は本ウイルスに対する警戒意識はある程度あると考えられる。抽出物により抗ウイルス成果が得られるかどうか疑問がある。(G氏)</p>	<p>文献情報により、現在までに効果のあるとされる物質をヨーグルト等6種類リストアップしており、十分期待できると考えている。</p>
	<p>乳幼児を対象にしているが、摂取できる食物は限られている。対象物質が未確定な状況で、乳幼児や高齢者を検体とする計画は困難である。(G氏)</p>	<p>ヒトでの試験については次のステップの別実験としてスクリーニングの結果を元に改めて検討することとしていますが、スクリーニングの段階から乳幼児が摂取可能な食物も意識して、行うこととします。</p>
<p>その他</p>	<p>ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒が多発している状況ではニーズが高い。(B氏)</p> <p>県民の保健衛生の観点からこのような調査を行うことは大きな意義がある。(B氏)</p> <p>乳幼児を集団保育の場に入れざるを得ない家庭にとって抗ウイルス作用のある自然食品などの研究は望まれる。(C氏)</p> <p>食品によるノロウイルス予防は県民の健康意識の向上につながり、他の機関でも利用可能である。(E氏)</p> <p>予防法が開発できれば、効果は高い。(F氏)</p>	

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
6	休廃止鉱山抗廃水及び処理の将来予測に関する研究	H29～31	4.6	4.6	4.3	3.7	17.1	実施すべきものとする
委員からの意見		意見への対応						
その存在もあまり知られていないと思われる。環境を保全するとともに、安全性が確保されるなら、観光施設にもなり得るのではないだろうか。（C氏）		山陰海岸ジオパークのエリア内にあり、ホームページにも掲載されています。訪れる人も多くおられるようです。						
新たな水処理技術、澱物資源化を目指したデータ分析、シュミレーションなど統計的な解析に期待する。（C氏）		得られた結果を活用し、新規の水処理方法や澱物の資源化方策の提案につなげていきたいと考えています。						
概ね適切であると思われるが、予算内訳の記入がない。（E氏）		内訳は全て「その他(消耗品、職員旅費等)」です。						
その他	<p>鉱害防止対策は県行政として取り組む課題である。将来的な取り組みのためにも長期的な展望が必要であり、今回の研究課題は重要である。（A氏）</p> <p>研究成果から長期的な環境保全への展望がもてる。成果は新たなリサイクル技術の開発に発展の可能性が有る。（A氏）</p> <p>課題達成は容易ではないと予想できるが、処理や予測は重要なテーマである。（B氏）</p> <p>地域の環境保全上重要なテーマであり、適切なソリューションが得られれば環境保全に貢献できる。（B氏）</p> <p>提案されている研究方法や研究計画は十分納得のゆくものである。（B氏）</p> <p>将来的な経費負担を明らかにするとともに、経費削減につながると期待できる。（C氏）</p> <p>広くは知られていないが、旧岩見鉱山の廃水処理の問題は、県政における重要な課題である。（D氏）</p> <p>将来の費用負担の見通しを予測することや将来最適となる廃水処理・資源化方法を提案することは、環境行政や地域の環境保全に大いに貢献することと思われる。他にも同様の問題を抱えている自治体や地域があり、本研究の成果が他で利用される可能性は高い。（D氏）</p> <p>先行研究を踏まえており、優れた提案である。（D氏）</p> <p>見込まれる成果に対して十分な費用対効果があると思われる。（D氏）</p> <p>近隣環境の保全に重要であり、その規模からも県でなければ実施困難である。（E氏）</p> <p>処理・対策をしないわけにいかないため、地域の環境保全に必要である。（E氏）</p> <p>持続的な鉱害防止対策として必要。（F氏）</p> <p>鉱害防止対策に関する費用は県が負担しており、コスト削減や水処理に伴う澱物の資源化に関する基礎研究が早急に求められる。（G氏）</p> <p>既に県民の税金で対応している事業であり、現状を評価・改善する知見は有益である。併せて、澱物の資源化については技術応用の余地がある。（G氏）</p> <p>基本調査と資源化に関する構成になっており内容が明確である。また、手法も明確であり、成果が期待される。（G氏）</p> <p>備品などの申請はなく、調査・測定に必要な予算が中心であり、適正である。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
7	廃棄物・土壌の溶出試験における試験精度に関する研究	H29～31	4.4	4.4	4.3	3.6	16.7	実施すべきものとする
委員からの意見			意見への対応					
概ね適切であると思われるが、予算内訳の記入がない。（E氏）			内訳は全て「その他(消耗品、職員旅費等)」です。					
新分析法の提案に期待。（F氏）			精度が確保される分析方法の提案を行って行きたいと考えています。					
その他 リサイクルチーム	<p>県の行政検査である溶質試験の精度確保は適切な施策を図るためにもはニーズが高く、また県でなければ実施困難。（A氏）</p> <p>研究成果が出れば、環境保全のためにコスト、時間の改善が図られ環境保全上効果が大きい。分析者によるばらつきを少なくする効果がある。（A氏）</p> <p>分析手法が一定でも結果が異なるのは問題である。本研究は精度向上を目指しており研究遂行上、重要である。（B氏）</p> <p>正しい分析法が確立されれば、結果として県民、事業者に益することになる。（B氏）</p> <p>妨害物質を含む多様な試料に対して、適切な手法を確立することは容易ではないと思うが、3年計画であり成果に期待する。（B氏）</p> <p>築地市場移転問題などの影響で、埋め立て、土壌汚染に対して国民全体の関心が高まっている。分析の精度を上げることは重要。（C氏）</p> <p>試験精度にばらつきがある点を検証し、精度を向上させることにより、廃棄物の適正な処理につながる。（C氏）</p> <p>県衛生環境研究所の実績の高い分野であり、今後もわが国の試験機関をリードすべできる。（D氏）</p> <p>試験精度が安定することは、行政への信頼につながり、ひいては事業者の意識の向上につながる。公定法の改良につながり得るものである。（D氏）</p> <p>個別の精度変動要因や測定妨害要因を踏まえた検討方法を立案しており、適切である。（D氏）</p> <p>見込まれる成果と比べれば、費用は控えめと思われる。（D氏）</p> <p>分析を担う県の事業として適切であり、最終的には環境保全につながる。（E氏）</p> <p>分析手法が確立されれば、他の機関でも同じ手法・精度で分析を行い、比較等が容易にできるようになる。（E氏）</p> <p>目標が明確であり、そこに至るまでの研究内容等は適切だと思われる。（E氏）</p> <p>精度確保は重要な問題。（F氏）</p> <p>環境への安全性が明確化される効果がある。（F氏）</p> <p>国で制定された分析手法はあるものの、曖昧な点が多いため、行政調査においては、手法を検討し、詳細な分析手法・手順を決めざるを得ない。（G氏）</p> <p>確立された分析手法は、統一された方法として県内事業に実用される予定である。（G氏）</p> <p>取り組むべき理由と目的、得べき結果が明確である。実験内容も適切であり、期間内に成果が得られると期待される。（G氏）</p> <p>備品などの申請はなく、分析方法の検討に必要な消耗品などの予算が中心であり、適正である。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（事前評価）

No.	課題名	研究期間	研究課題の必要性	研究の効果	研究計画・方法	研究予算	総合評価	総合判定
8	廃棄物再生材料の環境安全性に関する迅速試験法の開発	H29～31	4.4	4.6	4.3	3.4	16.7	実施すべきものとする
委員からの意見		意見への対応						
携帯型蛍光X線分析装置の使用による研究者の放射線被曝の心配はないか。（C氏）		電離放射線障害防止規則に基づく必要な手続きを行っています。また、機器本体に被曝を防止するための安全装置が組み込まれています。安全には十分配慮して作業を行います。						
概ね適切であると思われるが、内訳の記入がない。（E氏）		内訳は全て「その他(消耗品、職員旅費等)」です。						
その他	<p>現場での品質管理上のニーズは高く、県行政の質向上に繋がる。また、県でなければ実施困難と考える。（A氏）</p> <p>検査の迅速化が出来れば現場での対応がよりスムーズになる。公定検査法の改善に繋がる。（A氏）</p> <p>目標、研究計画とも明確である。（A氏）</p> <p>迅速試験法の開発は社会ニーズが高く、現場の負担軽減という観点からも重要。（B氏）</p> <p>研究効率を向上させる意味でも本研究開発は意義がある。（B氏）</p> <p>ICP発光分析法に替わって蛍光X線分析を採用しようということであり、研究手法が具体的である。（B氏）</p> <p>廃棄物のリサイクル製品の普及のためには環境安全性の確認が不可欠。（C氏）</p> <p>廃棄物の不適切処理現場での迅速な対応にも応用できる。（C氏）</p> <p>溶出試験が規定されているが、より簡便で迅速な方法のニーズは高い。特に現場においては有用である。県のこれまでの研究成果を活用することが想定されており、県でなければ実施困難である。（D氏）</p> <p>公定法の結果との比較をとおして、提案手法の確立を図っており、研究の成果は、他機関や他の研究で利用される可能性が高い。（D氏）</p> <p>固体原料のみならず溶出液体試料の分析方法を開発するための手法を提案しており、目標設定・手法は明確で具体的である。（D氏）</p> <p>分析手法の簡易化はハード面・コスト面から重要であり、これまでの試験法との比較もあることから県が行う必要がある。（E氏）</p> <p>分析手法が迅速化・簡易化できることで、さまざまな事業者や他機関が比較的容易に利用できるようになる。（E氏）</p> <p>目標が明確で研究内容・手法等も適切だと思われる。（E氏）</p> <p>迅速化される事で製品等の安全性が確保され、更に便利になる。（F氏）</p> <p>環境保全に役立つ。現場での活用が期待できる。（F氏）</p> <p>新たな試験方法の開発に期待。（F氏）</p> <p>施策との関連性が明確であり、廃棄物のリサイクルに不可欠な安全性確認の迅速化に取り組むことで、再利用促進が期待できる。（G氏）</p> <p>安全性確認における負担がリサイクル促進を困難にしている可能性がある。簡便な検査法により事業主の再利用意識向上につながる。（G氏）</p> <p>迅速・簡便化改善に焦点を当てた内容になっている。蛍光X線分析による解析を主軸にしており、ある程度の成果は確実に得られると考えられる。（G氏）</p> <p>内訳の明記が無いので詳細は不明であるが、研究内容を考えて、不適切な予算申請はしていない。（G氏）</p>							
リサイクルチーム								

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（最終評価）

No.	課題名	研究期間	目標の達成度	研究の成果	研究の効果	成果の発展性	総合評価	総合判定
9	迅速化を目的とした既試験法改良の検討	H27	4.1	4.3	4.6	3.7	16.7	優れた研究成果と評価する
委員からの意見				委員への対応				
肉、鶏卵検査への応用が検討されており、さらに進めて行かれることに期待する。(A氏)				一定の試験精度は確保されたため積極的に応用研究を進める予定はないが、鶏肉・鶏卵で試験項目を追加したり、他の検体でも測定対象項目の変更があったりする機会をとらえて、試験法の改良に取り組むこととします。				
さらなる精度の向上を期待する。また、他の研究へ発展する可能性も大きい。(B氏)								
さらなる精度・真度の良化を期待できる。(E氏)								
他の動物への応用研究も是非、検討して欲しい。(F氏)								
一部の成分については、評価基準を満たす精度が得られていないので、改善の余地がある。他の食品(豚・卵)への応用研究が可能である。(G氏)								
化学衛生室	その他	<ul style="list-style-type: none"> 検査法の迅速化はコスト削減、迅速な結果の提供ができそのニーズは高くその目的は達成している。(A氏) PCB分析については十分な精度が確認されたこと、残留動物用医薬品分析でもスクリーニング法としての活用可能である結果が導き出せている。(A氏) 従来法と比較しほぼ満足の得られる成果である。(B氏) 本試験法が普及すれば結果として県の保健衛生に貢献できる。(B氏) PCB試験法の改良、残留動物用医薬品試験法の改良について、迅速かつ試験精度も概ね精確であり当初の目標を達成できた。(C氏) PCB分析法、残留動物用医薬品分析、いずれも効率化でき、試験精度も確保できた。(C氏) 従来の試験法を統合するだけでなく、従来実施していなかった8成分も同時分析可能としており、目標以上の成果と認められる。(D氏) 従来6時間かかった工程を3時間半短縮しており、迅速化を達成している。(D氏) すでに実務に取り入れているとのことであり、効果が発現されている。(D氏) 所報にて公表を予定しており、他の試験機関が応用する可能性がある。(D氏) 分析法の改良が十分にできており、PCB分析、残留薬品分析共に実用性が高い結果が得られている。(E氏) 新法は信頼性の高い分析法であると思われる。(E氏) 保健衛生や環境保全への効果が期待でき、迅速性向上や分析の幅が広がることでコストカットなどの効果が期待できる。(E氏) 迅速化され成果が得られている。(F氏) PCB分析法では時間と人の短縮が出来、残留動物用医薬品分析ではさらに精度をあげる事ができ、実用化もされている。(F氏) 効率化、人件費の削減で大いに役立っている。(F氏) 分析方法の改善により分析にかかる時間やコストを削減する目的は本課題により十分に達成された。(G氏) 県内事業で必要な分析の迅速化を目指した実用的な研究課題であり、将来の実用化を念頭に置いた内容となっており、その成果が得られている。(G氏) 今後、県内の分析手法として、本研究で確立された成果(手法)が用いられる予定であるとのコメントがあったことから鳥取県の保健衛生や環境保全への効果が期待できる。(G氏) 						

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（最終評価）

No.	課題名	研究期間	目標の達成度	研究の成果	研究の効果	成果の発展性	総合評価	総合判定
10	リモートセンシングを利用した湖沼観測システムの開発	H26～27	4.0	3.9	4.0	4.1	16.0	優れた研究成果と評価する。
水環境対策チーム	委員からの意見		委員への対応					
	今後この研究成果を住民にどのように発信すればよいのか、環境意識の醸成のための活用法に工夫の余地有り。(A氏)		他の事例を参考にしながら、次年度事業の「水質観測技術の実用化に向けた研究」の中で発信方法や活用方法を検討する予定。					
	リモートセンシング技術がさらに進展すれば他の調査研究や応用研究に寄与できる。(A氏)		「水質観測技術の実用化に向けた研究」の中でも本成果を基に発展させていきたい。					
	目標は達成しているが、他の光学機器や赤潮に対して適用できるか検討が必要。(D氏)		現状では、光学機器の種類や赤潮の種類による補正が必要となる。どのように適用していくか、次年度事業の「水質観測技術の実用化に向けた研究」の中で検討する予定。					
	グランドトゥルースをとれるときばかりとは限らないので、そのような場合の予測精度を詰める必要がある。(D氏)		どのくらいの精度で活用できるか、次年度事業の「水質観測技術の実用化に向けた研究」の中で検討していきたい。					
	どのように実用展開していくのが課題。(D氏)		次年度事業の「水質観測技術の実用化に向けた研究」の中で検討する予定。					
	も少し精度や頻度が欲しい。(F氏)		予算等の面からこれ以上の精度向上や頻度を上げることは困難な状況である。精度向上は今後の課題としたい。					
	精度や頻度をあげる調査研究ができると思う。(F氏)							
	画像からクロロフィル a や海藻分布を観測するための基礎的知見は十分に得られている。しかし、ドローン撮影に依ることが実用化に問題がある。(G氏)		おっしゃるとおりドローン撮影には一定の制限は受けるが、その中でどんな方法で活用できるか今後検討していきたい。					
	デジタル画像によってクロロフィル a や海藻分布の測定が可能になった。一方で、詳細で正確性のある測定をするには改善が必要。(G氏)		精度向上は、今後の課題であると考えているが、一定レベルの測定が可能となったと考えている。					
本技術そのものは有用であるが、画像は湖の一部しかとらえられず、且つ駆動時間に制限があるため、ドローンによる撮影は実用的ではない。(G氏)		おっしゃるとおりドローン撮影には一定の制限は受けるが、その中でどんな方法で活用できるか今後検討していきたい。						
その他	<p>目標としたドローンを活用したリモートセンシング観測技術を獲得され、目標が達成できている。(A氏)</p> <p>この研究成果により、今後の水質汚濁の把握がより確実になり、発生源予測までも可能となる。(A氏)</p> <p>他の湖沼の水質管理に充分に応用できる。(A氏)</p> <p>2年という短い研究期間を考慮すればほぼ目標を達成。(B氏)</p> <p>成果を関連学会誌に発表しており基礎研究としても評価できる。(B氏)</p> <p>風評を懸念する漁協などへ正確な情報を提供するなど、特に地域住民への貢献は大きい。(B氏)</p> <p>ドローンの機動力と画像解析技術の向上により、迅速でわかりやすい実態把握が可能になった。(C氏)</p> <p>学会にも発表するなど、他に先駆け優れた研究成果が得られた。(C氏)</p> <p>湖沼の実態をビジュアルで訴えることは専門家のみならず一般の地域住民に対しても効果的と思う。(C氏)</p> <p>リモートセンシング技術の活用は湖沼だけでなくあらゆる場面での活用の幅が広がることが期待できる。(C氏)</p>							

	<p>予測精度の問題や外挿をどこまで許すかの問題が残っているが、簡易な環境可視化技術は、県民の環境意識の醸成に役立つものと期待できる。(D氏)</p> <p>本研究によって、基礎的な目途がついたので、今後は実用化に向けての研究に発展する可能性がある。(D氏)</p> <p>リモートセンシングを利用し、湖沼の画像データ解析からの水質解析システムを構築できている。(E氏)</p> <p>学会誌にも投稿され、確かなデータが得られている。(E氏)</p> <p>湖沼の環境を比較的わかりやすい形で数値化できることで環境保全への意識づけが期待できる。(E氏)</p> <p>質疑の時に出了ように、このシステムをベースにRGB画像解析だけでなくさらなる分析・数値化の幅が広がる可能性がある。(E氏)</p> <p>ドローンを利用して、広範囲に観測できることを確認できた。(F氏)</p> <p>住民の環境意識の向上に役立つ。(F氏)</p> <p>画像の取得技術・手法の改善と分析の精度を上げることで実用的で有用な技術確立を展開可能であると考える。(G氏)</p>
--	--

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（最終評価）

No.	課題名	研究期間	目標の達成度	研究の成果	研究の効果	成果の発展性	総合評価	総合判定
11	湖山池の環境変化に伴う生物多様性・生態系評価及び自然再生方法の検討	H24～27	4.0	4.3	4.6	4.3	17.1	優れた研究成果と評価する
委員からの意見		委員への対応						
継続的な研究が展開できれば応用研究などへの発展の可能性がある。（B氏）		本事業で得られた成果を「水環境における希少動植物の保全に向けた研究」等に活用しながら発展させていきたい。						
現地調査により、貴重な情報が取得できたと思われる。今後、底質の変化についても整理されたい。（D氏）		再汽水化前後での底質変化についてまとめているところ。また、今年度より「湖山池の汚濁機構解明と希少種保全のための研究」の中で栄養塩溶出や酸素消費速度について検討中。						
他の汽水湖とのデータの比較等、応用性がある。また、環境保全に関してさらに発展させていく必要がある。（E氏）		本事業の成果は、他の汽水湖でも参考になると考えている。今後、行政部門とも連携しながら、環境保全施策に生かしていきたい。						
その他	<p>再汽水化による湖内環境変化の実態を明らかにされ、その実態を基に淡水動植物の保全に取り組まれば目標は達成。（A氏）</p> <p>研究成果を基にヤマトシジミの安全性の確保、淡水動植物の保全に取り組まれた功績は大いに評価できる。（A氏）</p> <p>保全・再生手法の検討がされ、鳥取県の環境保全への効果は期待できる。（A氏）</p> <p>湖山池の自然再生という観点から研究成果の達成度はほぼ目標以上と評価。（B氏）</p> <p>湖山池の生物多様や生態系の理解は深く、研究結果や情報は極めて重要と評価。（B氏）</p> <p>カラスガイやセキショウモの挙動を明らかにすることは環境保全上重要でありその効果は大いに期待できる。（B氏）</p> <p>継続的な研究が展開できれば応用研究などへの発展の可能性がある。（B氏）</p> <p>現状の的確な把握と、衰退が確認される動植物の自然再生方法を確立した。（C氏）</p> <p>再汽水化による湖内環境変化の調査研究が果たした役割は大きい。（C氏）</p> <p>カラスガイの再生に向けての取り組みに期待する。（C氏）</p> <p>本研究により得られたカラスガイ再生に向けての知見は重要なものと思われる。（D氏）</p> <p>県行政において解決が求められている課題であり、研究の知見が活用されることが大いに期待できる。（D氏）</p> <p>カラスガイ再生に関して課題を残しており、継続的な研究の必要性が高い。これまでの成果を学会誌で発表しており、発展の可能性が高い。（D氏）</p> <p>当初の目標に加え、研究過程で確認された追加事項まで達成できている。（E氏）</p> <p>再汽水化の影響が明確になり、その結果から環境保全の必要性に行きついた。（E氏）</p> <p>汽水湖の生態系データは基礎データとして重要であり、今後の環境保全に役立つ。（E氏）</p> <p>湖内環境の変化を見守る事は重要。（F氏）</p> <p>カラスガイの稚貝の人工的生産で保全の足がかりができた。（F氏）</p> <p>今後の保全や、住民の環境意識の向上に役立つ。（F氏）</p> <p>今後の湖沼管理に役立つ。（F氏）</p> <p>生物多様性および変遷課程の評価は十分に達成されている。一方で、保全・再生方法については、具体的な手法というよりは、可能性のある方法を提言したのみである。（G氏）</p> <p>生物多様性評価に関して得られた成果の一部は学術誌にも掲載されていることから、科学研究としての知見が得られている。（G氏）</p> <p>生態状況の現状をとらえ、環境評価を積み上げていく事自体に大きな意味があり、情報発信や保全意識啓発の上でも重要である。（G氏）</p> <p>自然再生に関する研究を発展させることが可能である。多様性に関する研究は、目で見える成果が早急には得られないが、基礎研究は重要である。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

水環境対策チーム

調査研究課題総合評価票（最終評価）

No.	課題名	研究期間	目標の達成度	研究の成果	研究の効果	成果の発展性	総合評価	総合判定
12	越境大気汚染（光化学オキシダント）の植物への影響に関する基礎的調査研究	H25～27	3.6	3.1	3.6	3.4	13.7	研究成果として概ね適当であると評価する
大気・地球環境室	委員からの意見		委員への対応					
	評価会議で指摘があったように、生育実験結果、暴露実験結果については統計的検定をしても良かったのでは。（A氏）		生育実験結果、暴露実験結果について、再度、統計的手法により、検定を行う予定である。					
	研究成果の活用についてもう少し示唆するものがあたら良かった。（A氏）		出前講座等で植物が大気汚染の影響を既に受けていることを紹介し、大気汚染防止の啓発に活用できると考えている。また、本調査では県内各地でアサガオ（スカーレットオハラ）の葉の可視被害を確認しており、小中学校等で実際に大気汚染の影響を観察することは環境教育として有意義と考える。					
	ほうれん草以外の葉物野菜などへの適用の可能性を示唆できた。環境教育での活用を具体的に示して欲しい。（A氏）		オゾンとは、光合成を行うために重要なクロロフィル及び酵素の含量や活性等を低下させるため、光合成同化産物量が減少し、その結果、作物の生長量に影響が生じていると考えられている。 この光合成同化産物量の低下により、栄養、成分の変化も十分に考えられるが、この調査では葉部の可視被害や生長量という農作物の出荷に直接影響する部分について調査を実施したものである。ご意見のオゾン影響調査に係るアプローチについては、今後の検討課題と考える。					
	越境大気汚染は今後もますます深刻になると思われる。植物、農作物の収量、成長量のみならず栄養、成分には変化はないのだろうか。（C氏）		オゾンについては、欧州や国内でもオゾン影響に関し調査が行われており、様々な影響が報告されているところ。今回のオープントップチャンバーを用いた生育実験は、低木等への適用も可能であり、今後、光化学オキシダント濃度の状況により調査の必要性について検討したいと考えている。					
	育成期間の短い葉物野菜に比べ、果樹や立木への影響が気になる。（C氏）		生育実験結果、暴露実験結果について、再度、統計的手法により検定を行いたいと考えている。 実大気と浄化大気での生育実験は、オゾン濃度が高くなる春季に実施したものであり、高濃度暴露時にも同様の生育阻害が確認されたことから、確認されたハウレンソウの生長量の差は、オゾンに起因するものと考えているが、オゾン以外の可能性を完全に排除することは今度の検討課題と考えている。					
	実大気より浄化大気の方が成長に関する指標が良かったために実大気レベルでのオゾン濃度の影響ありとしているが、オゾン以外の可能性に言及すべきである。差を明確にするために統計学的検定を行うとなおよい。（D氏）		ご意見のとおり、浄化大気にオゾンを追加することにより、他の汚染物質による影響を排除でき、より厳格な試験方法とすることができると考えるが、オゾン濃度の日内変動を考慮した上で、オゾン添加量を制御することは現時点では技術的な課題が多いと考えている。					
	オゾン濃度の日内変動を考慮する手法、浄化大気にオゾンを追加する手法に発展させることで、より厳密な試験方法を開発できる可能性がある。（D氏）							

<p>葉物野菜を研究に利用していることから、ポリフェノールやビタミンC、Eといった抗酸化物質の測定もあると県民がより興味を持つと思われる可視被害と内部成分との比較ができたのではないか。(E氏)</p>	<p>この調査では、葉部の可視被害や生長量という農作物の出荷に直接影響する部分について調査して来たものであり、ご意見のあったオゾン影響調査に係るアプローチについては、今後の検討課題と考えている。</p>
<p>フィールド調査から環境への影響についての知見は得られたが、実験結果をそのまま適用できるかは微妙。(E氏)</p>	<p>本調査は、県内オゾン濃度での植物影響の現況把握に主眼をおいた基礎調査である。確認された生長量への影響については、オゾンに起因するものと考えているが、植物の生育は日射時間や気温等の気象要因の影響を受けるため、ご意見のとおり、オゾン濃度上昇時の実験結果をフィールドに直接適用することは難しいと考える。</p>
<p>もう少し、データがあるとわかり易い。(F氏)</p>	<p>所報には、測定結果等を詳細に掲載する予定である。</p>
<p>被害の調査については可視被害が認められないという成果が得られているが、自然環境下での被害を予測・確認する実用的な手法は得られていない。(G氏)</p>	<p>農作物の生長量の減少には、オゾン濃度のほか、気温や降水量、日照時間等の気象要因も作用するため、フィールド上でオゾンに起因する農作物の被害の予測・確認する手法を確立するところまで至らなかった。 現状のオゾン濃度レベルでは、農作物の出荷等に直接影響するような可視被害の発現は確認されなかったことから、今後の濃度の状況に応じて、追加調査の必要性や、フィールド上での被害の調査手法、予測手法について検討したいと考えている。</p>
<p>本研究により、天然環境でも生育量に影響を及ぼしている可能性がしめされているものの、問題視されるような被害がないものに見える。(G氏)</p>	<p>この調査により、鳥取県の現状のオゾン濃度レベルにおいて、オゾンに起因する生長量の減少が示唆されたが、農作物の葉に可視被害の発現は確認されなかった。このことは、県内のオゾンに起因する農作物への影響として一定の知見が得られたものと考えている。</p>
<p>その他</p>	<p>ほぼ目標どおり達成されており、有益な成果が得られた。(B氏) オゾン濃度とホウレンソウの収量との関係が明らかにされている。(B氏) オゾンが葉物野菜の生育・収量に与える影響について一定の知見が得られており、農業への貢献も大きい。(B氏) 環境教育という側面での効果も大きい。(B氏) フィールド調査の結果、可視被害は生じていないなど、現状把握につながった。(D氏) 現状レベルのオゾン濃度で、農作物(ほうれん草)への影響があることを示唆しており、今後の活動展開が期待できる。(D氏) フィールド調査に関しては目標通り行われていると思われる。(E氏) 研究内容の改良や他植物での応用等、発展の可能性はある。(E氏) オゾン濃度が葉物野菜に与える影響が分かった。(F氏) 環境保全の目安の一つになり得る。(F氏) 農作物への栽培対策に役立つ。(F氏) 実験システムに若干課題はあるものの、過度のオゾン被曝が及ぼす影響を確認する事は出来ている。(G氏) 将来、被害が問題視されるような場合に本研究成果を活用できる。(G氏)</p>

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（最終評価）

No.	課題名	研究期間	目標の達成度	研究の成果	研究の効果	成果の発展性	総合評価	総合判定	
13	鳥取県内におけるPM2.5の実態把握に関する調査研究	H26～27	4.1	3.9	4.4	4.4	16.9	優れた研究成果と評価する	
		委員からの意見			委員への対応				
		県民への健康影響を明らかにするための基礎的データを得ることが出来た意義は大きい。県民への情報発信の工夫を考えて欲しい。（A氏）			ご意見のとおり県民へ広く情報を発信することは重要だと考えている。情報発信については、関連学会等での発表や所報等で報告するとともに出前説明会等で、県民の皆様にはわかりやすく情報発信していきたいと考えています。				
		PM2.5による汚染の実態を分析することで原因の特定、解消につながることを期待する。（C氏）			次年度に行う調査研究では本県における汚染実態の解明や原因の特定ができるよう、さらなるデータ収集及び解析を行っていききたいと考えている。				
		大気の観測と合わせて、喘息、皮膚など、健康被害との因果関係が見いだせるのではないかと。また、その対策にもつながるのではないかと。（C氏）			健康被害との関連は当所単独で明らかにすることが困難であることから、健康被害に知見をもつ研究機関との連携により新たな知見が得られないか検討していきたいと考えている。				
		大気に国境や県境はなく、他の地域データと比較・統合することで本成果をさらに活用できると考える。また、測定・評価手法の改善の余地がある。（G氏）			本研究で得られたデータに加えて次年度行う研究において得られるデータを用いて他地域との比較も行っていきたいと考えている。その際には、先行事例の情報収集等を行い、適切な解析や評価方法を検討していきたい。				
大気・地球環境室	その他	<p>健康被害との関連性や被害防止を考える上で、本研究データの活用は今後の研究への応用・発展性は大きいと考える。（A氏）</p> <p>ほぼ目標どおりであり有益な成果が得られた。（B氏）</p> <p>PM2.5の季節変化や粒子の性質などについて概ね正確な知見が得られた。（B氏）</p> <p>PM2.5の挙動は健康と密接な関係があり、正確な情報を得ることは極めて重要であり、保健衛生の向上に寄与できる。（B氏）</p> <p>多数の試料を採取・分析するとともに、主成分分析により由来を判定している。（D氏）</p> <p>夏にPM2.5の値が大きいケースがあるなど、重要な知見を提供している。主成分分析の結果は、PbとZnが同様の挙動であることを示しており、従来のPb/Zn比による燃焼起源の判定指標に疑問を投げかけるものである。新たな知見につながる成果と思われる。（D氏）</p> <p>さらに研究が発展し、汚染の実態解明につながれば環境保全対策・衛生確保の立案・実施につながると期待できる。（D氏）</p> <p>英文ジャーナルとして成果を発表しており、他の研究に活用される可能性が高い。（D氏）</p> <p>目標通り、PM2.5の継続的な分析と比較が行われた。（E氏）</p> <p>今後の研究につながるPM2.5の飛来時期、内容物の基礎データが得られた。（E氏）</p> <p>PM2.5の飛来時期データ、内容物データが得られ、県民の健康の保持対策に役立つと思われる。（E氏）</p> <p>PM2.5は国内さまざまな場所で問題になっており、飛来時期データや内容物データは環境・健康などの研究へ応用されていく可能性がある。（E氏）</p> <p>越境大気汚染の由来が分かった。（F氏）</p> <p>成分分析により、原因の特定に繋がると思う。（F氏）</p> <p>住民の関心は高く、健康被害対策に役立つ。（F氏）</p> <p>環境問題の国際的な取組の貴重なデータになるのでは。（F氏）</p> <p>目標である①物質等の濃度変化の把握②越境大気汚染の実際の把握の両方が明確になされており、有用なデータ・知見が得られている。（G氏）</p> <p>目標②については国際的な研究協力体制の下、汚染要因の解明の考察までがされている。論文発表などの成果も得られている。（G氏）</p> <p>継続的なモニタリングを行うことが必要である。（G氏）</p>							

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。

調査研究課題総合評価票（最終評価）

No.	課題名	研究期間	目標の達成度	研究の成果	研究の効果	成果の発展性	総合評価	総合判定	
14	ブラウン管ファンネルガラスのリサイクル技術実証化研究事業	H25～27	4.1	4.6	4.4	4.9	18.0	優れた研究成果と評価する	
		委員からの意見			委員への対応				
		連続処理の実証、ガラスからの鉛除去・無害化の確認など優れた成果が認められる。コスト面での評価があればなお良かった。（A氏）			コスト面での評価も行っています。当初の目標とした50円/kgには及ばなかったため、薬剤費等の削減が課題とされました。				
		太陽電池パネル等のリサイクル技術への応用に期待。（F氏）			応用に向けた研究を進めて、技術の活用につなげていきたいと考えています。				
その他	<p>塩化揮発法により極めて高い鉛の除去率を達成し、特許を出願するなど目標の成果は目標以上である。（A氏）</p> <p>廃棄物の安全性確保と安全なリサイクルを目指した研究であり環境保全効果が大である。（A氏）</p> <p>ブラウン管の廃棄が減少した現在ではニーズは下がってきたと考えられるが太陽電池のパネル等のリサイクル技術への応用が示唆されている。（A氏）</p> <p>コスト的な課題は残るが、技術的にはほぼ目標どおりの成果が得られた。（B氏）</p> <p>得られた知見は応用面で汎用性がある優れたものである。（B氏）</p> <p>この技術自身は有意義なものであり環境保全への効果を期待する。（B氏）</p> <p>有価物の回収技術として他の研究や応用面で大いに期待できる。（B氏）</p> <p>回転炉を製作しての実験は大変だったと思う。（C氏）</p> <p>鉛の除去率99%は素晴らしい。（C氏）</p> <p>環境対策など、今後も社会に必要とされると思われる。（C氏）</p> <p>鉛以外の金属、焼却残渣、太陽電池パネルなど、様々な分野での応用が期待される。（C氏）</p> <p>実機レベルでの連続的な処理が高い除去率で可能なことを実証しており、分離したガラスのリサイクル性を明らかにしている。（D氏）</p> <p>経済性には課題が残ったとのこと（目標50円/kgに対し、試算結果80円/kg）だが、焼却残渣へも適用可能であることを明らかにしており、投入物を安価なもので試すことや規模を大きくとればコストを下げる余地があり、資源価格の変動次第では実用化できる技術と思われる。（D氏）</p> <p>県内に事業所を有する企業との共同研究、かつ、特許出願中の技術に基づいた成果であり、将来的に県の廃棄物処理業に貢献することが期待できる。（D氏）</p> <p>今後、発生量の増大が想定される太陽光パネルの処理技術として適用可能性を有しており、新たな研究へ発展する可能性が高い。（D氏）</p> <p>応用性の高いリサイクル技術が確立できている。（E氏）</p> <p>応用性の高いリサイクル技術であり、環境保全への効果が期待できる。（E氏）</p> <p>回収物に合わせ、さらなる技術の応用・利用が可能である。（E氏）</p> <p>無害化技術が実証され適正な処理に役立つ。（F氏）</p> <p>リサイクルに大いに役立つ。（F氏）</p> <p>大規模スケールによる鉛除去技術の確立や処理物のリサイクルに着目した目標項目は全て達成</p>								

リサイクルチーム

	<p>されている。(G氏)</p> <p>実用化を見据えた技術・評価に関する研究が適切になされており、結果も得られている。特許出願中である点も、評価できる。(G氏)</p> <p>ブラウン管への大きなニーズが現状ないものの、将来的には県内における太陽光パネルのリサイクル事業などに活用可能である。(G氏)</p> <p>今後の太陽光パネルへの転用やコスト面などに課題が残っている。本技術をより改善・展開する事が期待される。(G氏)</p>
--	---

※記入する行は必要に応じて削除又は挿入すること。